

## べろべろ

田中 愛子

振り返ってみるとあれはいままでいうセクハラであったと思う。部下をちゃんづけで読んだり、独身であることを冷やかしたり。そういう言動は親しさの表れでもあり、みんなそういうものだと思っていた。しかし、セクハラ、パワハラ、モラハラ：いまはハラスメントを表わすことばがたくさんうまれて広く知られるようになり、ばくぜんとしていた不愉快をすっかり表現することができるようになった。

ことばがうまれたことよって、不愉快や理不尽を主張できるようになったのである。現実にもそこにあっても、ハラスメントのように形のない感覚だけのものは、それをはつきりとさし示すことばがなければ気づきにくいとか表現しにくいとかいうこともあるかもしれない。しかし、形のある物はどうだろう。

物のあるゆゑにことばもまたありて砧ちんぶは人を切る台

柏崎驍二『百たびのゆき』

「砧斧」とは、漢和辞書によると「人切り台と、人切り

のおの」だそうである。そんなものにも名前があるのだというよりも、物があるから名前もあるという歌である。物には名前がある。しかし、形のないものと違って、形があって眼の前に存在する物は、たとえ正式な名前を知らなくても、その形状や使いみちなどをあれこれと表現すれば、充分相手に伝わって日常不便なくすごしていける。たとえお弁当のなかの、仕切りに使う緑色の葉っぱみたいなものとかさかなの形をしたお醤油の容器などといえは伝えたいことは伝わるし、紙をはって金魚をすくう輪つかといえは何のことかはだれにも明らかである。

ふさはしき呼び名を知らずアレと呼ぶべろべろピンクで蓋が軽く開く 大松達知『ゆりかごのうた』

たぶんこれはわが家で「蓋を開けるみどりのあれ」と呼んでいる瓶の蓋オープナーとかいうもののことと思う。夫婦でも友だちでも、その仲間だけに共通することばをたくさんもつことが仲の良さに比例すると聞いたことがある。はつきりと名ざししなくても、なぜか通じてしまう関係。何かをはつきりとさし示すことばを持つことも大事だと思うけれど、そんなことばのいらぬ、「あれこれそれ」だけで通じてしまう関係もわるくないかも知れない。ちなみにさきほどのお弁当の中の葉っぱは「ばらん」、醤油入れは「たれびん」、金魚すくいの輪つかは「ぼい」というのだそうである。